

東一の江こども園

「子どもたちが探求する行事と日常の連関」

令和6年度

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



どうしたら、お客さんが来るのか？
コンサートのチラシを
保育者と一緒に考えて
作っています。
(4歳児)



子どもの思いが実現で
きるようにおおきな
段ボールを活用し、そ
こから遊びが生まれま
す (満3歳児)



遊んでいるものが発表
会につながり、劇が遊
びになっていくからこ
そ色んな発見が生まれ
ます (3歳児)

子どもたちはあそびの中で様々な探求をし、
保育者は子どもが主体的に取り組めるように様々な工夫をしています。



公園に遠足行ったときに見たバスを作りたい！
ドアミラーってどうなっていた？
どうしたらみんな乗れる？
色んなことに探求して、作っていました。



病院、救急車に興味を持った子どもたち。
近隣の医療系専門学校に行って、色んな話を聞いてきて、作った救急車。中もとてもリアルです。

地域の資源を活用したり、一緒になって考えたりしながら、子どもたちは探求することを楽しんでいます。

そのためには日々の生活の中で繰り返される遊びとそれが充実することを目的とした行事のつながり（連関）も大事。そこに注目した3つの事例を紹介します。

事例（1）「かみなりどんがやってきた」

（3歳児）

かみなりどん
ここにいた！



①



②

かみなりどん
はどこでトイ
レする？



③



④

「かみなりどん」の手遊びから「かみなりどんがやってくるかな？」と子どもたちが思い始めたところから、かみなりどん探しは始まり、保育者が作ったかみなりどんを見つけました①。

そのかみなりどんと一緒に生活するために必要なものを考えて、トイレやお風呂をつくりはじめます②。

その後、一緒に生活をしていく中で、おにぎりを食べ過ぎて大きくなったかみなりどん③。

子どもたちと同じぐらいになって一緒に遊ぶことも多くなってきました④。

事例（1）「かみなりどんがやってきた」 （3歳児）



⑤



⑥



⑦



⑧

「みんなのじかん」※にかみなりどんについての話をみんなですることもあり、思いが共有され⑤、さらに遊び込み、みんなだいすきなかみなりどんと一緒に生活発表会で劇をしました⑥。

こういった経験から、「こうしたい！」「こうしたら？」が増えていきました。そのひとつが、ブランコ⑦です。

そして、ありんぼ会表現展では公園を作って、遊んでいました。

その後、かみなりどんの友だちもやってきて子どもたちと一緒に生活をしています⑧。

※「みんなのじかん」 クラスなどで集まって、遊びや興味関心を発表したり話し合ったりし、クラスなどで様々なことを共有し、遊びの充実につなげる時間

事例（2）「ピーターパン」（4歳児）



①



②

この鉄砲、
僕が作ったのに
似てるよ！



③

6月の観劇会でみんなで見た「ピーターパン」。そこからピーターパンのお話に興味を持ちます。フック船長、戦いや武器、船、宝物などその興味は多様で、それぞれで遊んでいたりと、つながったりしながら、遊んだり、本で調べたりと日々様々な遊びをしていました①②。その後、普段遊んでいる内容を発表会で演じますが、どうしたら見ている人にわかってもらえるか？どうやったら面白いかなど子どもたちと一緒に考えていきました③。

事例（2）「ピーターパン」（4歳児）

④



⑤



⑥



バスと同じぐらいって
すごい大きい！

生活発表会がおわっても、ピーターパンの遊びは続きますが、徐々に様々なこだわりや興味に探求していきます。

船の舵がうごくようになったり④、船から海に興味に移り、ダイオウイカを調べ、園バスより大きいことにも驚いていました⑥。

こうやって作って、遊んで、としていったものをありんぼ会表現展で展示し、そのプロセスの中の育ちや学びを保護者につたえていきました⑦。

⑦



事例 (3) 「ロボット」 (5歳児)

ある日、クラスで読んだ絵本①※から、いろいろなロボットやロボットの魚、ロボットの靴など絵本に出てくるロボットやそこから発想したロボットを作り始めました②。

その後、絵本に出てくるおおきなロボットをつくるために、改めて絵本を見たり、設計図を作ったりと試行錯誤しながら完成させ、「まっち1ごう」という名前をつけました③。

①



ロボットの
さかなを考えたよ

②



③



※ゆきのゆみこ・上野与志:作 末崎茂樹:絵
『わんぱくだんのロボットランド』ひさかたチャイルド,1995

事例 (3) 「ロボット」 (5歳児)

④



⑤



⑥



子どもたちが様々に探求し、クラスが色んなロボットがいっぱいになったころ、生活発表会が近づいてきました。そこで、絵本を劇にすることにしますが、話が長く難しいため、みんなのじかんなどで子どもと一緒にどうしたら発表会で劇ができるか、どの場面をやるか、台詞はどうするか？誰が何するのかなど様々考えていき④、発表しました⑤。その後、興味関心は多様に広がっていき、ロボット以外のことにも探求していくようになり、たとえば、まあち1ごうの家を作りたいなど、遊びこんでいきました⑥。



考 察

子どもたちの日々のあそびの中には多くの「探求」がそもそもあるのですが、それを保育者がどう支えて、深めていくかがとても大事なことだと改めて気がつきました。



それは、子どもが安心して自己発揮できるように見守ることと、子ども自身で工夫やアイデアが出てくるように環境構成し、保育者からの提案をするような関わりの両面が大事なことになります。

前者については上越教育大学附属幼稚園に主任らが見学、質疑応答させてもらい、より重要性を認識させられました。安心感があるからこそ子どもたちはのびのびと探求できるのです。



今回のテーマの一つである「行事」はそのあそびの中の探求をさらに深める原動力の一つです。日常生活、遊びを行事がさらに充実させ、さらに行事がきっかけになって遊びが充実する。そんな連関の中で子どもたちはワクワクしながら様々な探求をしていきました。